

Atmos. Sci. などに多くの論文が載っている。

ところで気象の観測には(実際問題として、どんな観測でも)誤差がつきまとう。数値予報モデルが変なアトラクターを持っているなら、『真の』値から少し違った観測データを入力すれば、将来全く違った大気の状態を予測してしまうことになる。

しかし、大気はカオスだ、だから天気予報はあたらないのだ、と短絡してしまうのは、半分くらいしか正しくない。ロレンツ・モデルでも初期値の有効数字4桁目の値の違いが、最初の桁の値に影響を及ぼすするには時間がかかる。数値予報モデルでも初期値の誤差が次第により

大きい空間スケールを持つ運動を汚染していき、シノプティック・スケールの予測が意味のなくなる限界は、理論的に10日から14日くらい先までといわれている。しかしまだその限界には達していないから、数値予報モデル改善の余地は大いにある。

なお、カオスについては最近よい一般向け解説書が出版されている。たとえば戸田盛和著「カオス—混沌のなかの法則」(岩波書店, 1991)、竹山協三著「カオス—自然の乱れ方」(裳華房, 1991)など。第1図は戸田からの引用である。



## 第25回国際水理学会会議開催案内／演題募集

**主催:** 第25回国際水理学会会議 国内組織委員会  
土木学会

**開催日:** 1993年8月30日(月)～9月3日(金)

**会場:** 京王プラザホテル(東京)  
東京都新宿区西新宿 2-2-1  
TEL 03-3344-0111(代表)

**講演:** 一般講演 500題(予定)特別講演, セミナー等

**論文投稿締切:** 1993年1月末

**論文募集テーマ:**

- A. 洪水と渇水
- B. 土石流と地滑り
- C. 高潮, 津波および高波
- D. 環境汚染と安全管理

**セミナー:** 「つくばセミナー; 自然災害の軽減に向けて」

**日時:** 1993年9月6日(月)～7日(火)

**会場:** 研究交流センター(科学技術庁)  
茨城県つくば市竹園 2-20-3

**目的:** 第25回国際水理学会会議が、「水理学を通して如何に“国際防災の10年”に貢献するか」を旗印として開催されるのを機に、防災工学の現状と課題について実務者向けのセミナーを開催する。発展途上国の若い技術者及び日本の防災担当者に総合的な知識を短期間で得る機会を提供して、生涯教育の一環として機能することを目的とする。

**連絡先:** 第25回国際水理学会会議 事務局

〒160 東京都新宿区四谷一丁目無番地

(株)土木学会 気付

TEL 03-5814-5800 FAX 03-5814-5823



## 研究集会「流体における波動現象の数理とその応用」講演募集

1992年度の京都大学数理解析研究所の共同利用研究計画の一つとして、標記の研究集会が開かれます。

この集会は、流体力学、応用数学、気象学、海洋学、土木工学、物理学などの異なる分野で「流体における波動現象」に関心をもつ研究者に議論の場を提供し、今後の研究の発展の方向を探っていくことを目的とするものです。

次の要領で講演を募集いたしますので、ふるって御応募下さい。

代表者 九州大学応用力学研究所 及川正行

開催日：1992年11月4日（水）～6日（金）

会場：京都大学数理解析研究所

講演申込み締切：1992年9月16日（水）

申込み要領：A4版の用紙に、1）題目、2）講演者氏名、3）所属、4）職名あるいは学年、5）連絡先（電話番号も）、6）要旨（100字程度）、7）旅費希望の有無（御希望に沿えない場合もあります）、を御記入の上お申込み下さい。また OHP 以外の使用を希望される方はその旨お書き下さい。

申込み先：〒816 福岡県春日市春日公園 6-1

九州大学応用力学研究所 船越満明

TEL 092-573-9611 内線 583

FAX 092-575-1159



## 1992年度（第9回）井上學術賞候補者推薦要項

1. 候補者の対象：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた研究者。ただし、年齢が1992年9月21日現在で満50歳未満の研究者に限ります。
2. 学術賞：本賞：賞状及びメダル 副賞：200万円 授賞件数は5件以内とします。  
 （注）受賞者は、原則として1件について一人とします。特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等であることを示して下さい。ただし、この場合についても1件として取り扱います。
3. 推薦件数：各推薦者から1件とします。
4. 推薦依頼先：当財団の役員・評議員に推薦を依頼します。
5. 提出方法：所定の推薦書用紙に必要事項を記載し、当財団あてに提出願います。
6. 締切期日：1992年9月21日（月）
7. 選考方法：当財団の選考委員会において選考し、理事会において決定します。
8. 学術賞の贈呈：1993年2月4日（木）の予定  
 （選考の結果は、1992年12月中旬に推薦者へお知らせします。）
9. 提出先及び連絡先：  
 財団法人井上科学振興財団  
 〒150 東京都渋谷区猿樂町11番20号  
 TEL 03-3477-2738 FAX 03-3477-2747
10. 推薦書：記入・申込用紙は学会事務局にあります。



## 第2回「基礎研究の振興と工学教育」シンポジウム

—大学の改革と学術法人活性化を目指して—

1. 日 時：1992年10月12日（月）13:00～17:30  
 2. 場 所：鹿島建設 KI ビル地下大会議室  
 東京都港区赤坂 6-5-30(☎03-5561-2111)

主 催：日本工学会

共 催：日本工学会アカデミー／材料連合フォーラム／日本工業教育協会

協 賛：177学協会

後 援：文部省／科学技術庁／通商産業省／(独)経済団体連合会／日本商工会議所

(予定) 経済団体連合会／(独)経済同友会

幹事学会：高分子学会／資源・素材学会／情報処理学会／テレビジョン学会／電子情報通信学会／土木学会／日本化学会／日本機械学会／日本建築学会／日本鉄鋼協会

### 〔シンポジウム開催の趣旨〕

わが国の科学技術による国際貢献の声が広く国民に浸透していく中で、具体的に国富をどのような機関を対象に投入すべきかが問われるようになって来ております。このような情勢の中、わが国の科学技術政策大綱を示す科学技術会議諮問第18号「新世紀に向けてとるべき科学技術の総合的基本政策について」が総理大臣へ答申されました。その中で科学技術が経済発展の原動力であり、社会の諸問題を解決する手段であること、知的創造力を資源として立国するわが国は将来へ向けて、独創的な理論や技術を自ら構築する使命があること等の認識と、科学技術に対する夢と情熱を持った人材が多数輩出し、あらゆる分野で存分に活躍できることへの配慮が示されております。本シンポジウムはこれらの視点に焦点をあてて、広くその重要性を産・学・官・政各界へ訴え、政策実現への結実を願って開催するものであります。

—プログラム（敬称略）—

- 13:00～13:10 開会の辞 日本工学会会長 石川六郎  
 13:10～14:00 特別講演「国際貢献と科学技術」  
 前外務大臣・衆議院議員 中山太郎  
 14:00～14:50 講演（Ⅰ）  
 「新世紀へ向けての大学の在り方」

東北大学長・日本学術会議員

西澤潤一

<座長>東京工業大学長

日本工学会アカデミー政策委員長

末松安晴

—休 憩—

15:10～16:00 講演（Ⅱ）

「産業界から大学へ期待するもの」

経済団体連合会—折衝中— 未 定

<座長>新日本製鐵(株)常務取締役

日本工学会アカデミー理事 富浦 梓

16:00～16:50 講演（Ⅲ）

「若者に理工学への夢と情熱を与えるために」

日本学術会議化学研究連絡委員長

田丸謙二

<座長>日本工学会副会長

田中郁三

16:50～17:20 <問題提起>

「大学の改革と学術法人活性化」

日本工学会 政策委員長 内田盛也

17:20～17:30 閉会の辞 日本工学会副会長 堀 幸夫

17:30～19:30 懇親会（会場：鹿島 KI ビル）

—参加申込について—

参加費：1,000円

参加申込：往復ハガキに氏名・年令・勤務先・同居所・同電話番号・所属学協会名・会場番号を明記した上、返信ハガキ表に通信先住所・氏名を必ずご記入下さい。

（FAX でのお申し込みは受付ません）

申込期日：1992年9月末日必着

申 込 先：〒107 東京都港区赤坂 9-6-41

乃木坂ビル3階

社団法人日本工学会「10月シンポジウム」係

TEL 03-3475-4621 FAX 03-3403-1738

参加証：参加証（返信ハガキ）を順次お送りいたしますので、当日ご持参下さい。



## アジア太平洋ISY会議 (案) / Asia Pacific ISY Conference

### —宇宙の中の地球と宇宙開発—

1. 開催期間：1992年11月16日（月）～11月20日（金）
2. 開催場所：都ホテル東京（港区白金台）
3. 会議の構成：
 

会議のテーマは「宇宙の中の地球と宇宙開発」とし、サブテーマは以下の4テーマとする。

  - (1) 「惑星地球へのミッション—Mission to Planet Earth」(地球環境と宇宙開発)
  - (2) 「人類は宇宙へ—Man in Space」(宇宙環境の利用と有人宇宙活動)
  - (3) 「アジア太平洋地域における宇宙開発—Space

Activities in the Asia Pacific Region」

- (4) 「遙かなる宇宙—Future Space Missions, Beyond Horizon」(21世紀の宇宙開発)

これらのサブテーマを次の形式で発表する。

- (1) 講演
- (2) 展示
- (3) ワークショップ（専門家対象）

4. 連絡先：お問合せは 日本国際宇宙年協議会事務局  
TEL 03-5443-1992

編集後記：気象庁予報課では地上天気図の手書き解析を行っています。気象庁印刷天気図の原図にもなるアジア太平洋天気図と、ラジオ気象通報の母体となる極東天気図の2種類です。

手書きとなると、解析に有効な資料は総動員ということになり、解析官は日々の気象データに量的にも意識的にも深くかかわることになります。

現在までに得られた解析に関する知見をもとに、解析作業をルーチン的に行うわけですが、ふだん生のデータを得にくい研究意欲旺盛な会員の方からすれば非常にめ

ぐまれた環境と映ることでしょう。「私だったら同じデータの中から新しい宝石を掘りあててみせる」というような方もいらっしゃると思います。一方、ルーチン作業者だからこそ発見できること、コメントできる事柄というのがあるわけで、この点をうまく気象研究に結び付けられればと考えています。

4月から編集委員になりました。事務局で校正の仕事などを行っています。高品位で読みやすい誌面作成のためがんばります。

(梶原 靖司)